

生涯スポーツ学専攻スタッフ

川西 正志 KAWANISHI Masashi
生涯スポーツ学研究科長・教授※
担当科目 生涯スポーツ学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 1975 年中京大学体育学部健康教育学卒業、1977 年中京大学大学院体育学研究科社会体育学専攻（修士課程）修了（体育学修士）。1985 年より国立大学法人鹿屋体育大会学講師として勤務して以降、助教授、教授、生涯スポーツ実践センター長、学長補佐、副学長、理事・副学長を経て 2018 年 3 月定年退職。2018 年 4 月鹿屋体育大学・名誉教授、及び北翔大学教授勤務。その間、海外研修は文部科学省短期及び長期在学研究員として 1988 年カナダオンタリオ州立ウォータールー大学客員研究員、1996 年カナダオンタリオ州立ウィルフリッドローリエ大学客員教授に就任。所属学会（所属・役員歴含む）は、日本体育学会（理事・評議員・代議員）、日本体育学会体育社会学専門分科会：現専門領域（会長）、日本生涯スポーツ学会（理事長・会長）、日本スポーツ社会学会（理事）、日本野外教育学会（理事）、国際スポーツ社会学会（ISSA）、ヨーロッパスポーツ社会学会（EASS）等。学外委員として日本スポーツ振興センター・スポーツ振興事業助成審査委員会委員（委員長）、日本スポーツ協会地域スポーツクラブ育成委員会委員、他多数の専門委員を務める。
主な研究テーマ及び概要 これまでの著書・論文・学会発表等では、主に、人の生涯にわたる体育・スポーツの多面的な現象について社会学的視点から研究を実施している。研究テーマとして 1. 地域スポーツクラブの社会的機能、2. 青少年スポーツの参加と QOL、3. 中高年スポーツ参加と QOL、4. 産学連携教育の教育的効果、5. 一流スポーツ選手のキャリアパターン、6. 生涯スポーツ政策の国際比較、7. 高齢者の貯筋運動推進とソーシャルキャピタル醸成等について、主に、社会調査法による量的統計的分析手法を用いた研究を実施し、国際的視点から考究する。

沖田 孝一 OKITA Koichi
教授※
担当科目 スポーツ医科学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 博士（医学）。旭川医科大学卒。主な資格：総合内科専門医、循環器専門医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本医師会認定健康スポーツ医師、日本医師会認定産業医。所属学会など：米国生理学会、日本臨床運動療法学会（理事）、札幌市スポーツ協会（理事）、日本心臓リハビリテーション学会（評議員）、日本体力医学会（評議員）、北海道臨床栄養学会（理事）、米国スポーツ医学会、日本循環器病学会、日本内科学会など。
主な研究テーマ及び概要 「心不全における運動耐容能低下」をテーマに研究を開始し、「心不全に伴発する骨格筋代謝異常の研究」を進展させ、一流国際医学雑誌である Circulation（1998）、American Journal of Cardiology（1998）などに論文を掲載した。また「生活習慣病と運動療法」においてバイオマーカーを視点に運動療法の有効性を証明した論文を Arterioscler Thromb Vasc Biol（2004）に掲載し、その業績を評価され、平成 18 年 7 月に日本心臓リハビリテーション学会第 2 回木村登賞を授与された。平成 16 年 4 月より教授として教育および健康医科学研究に従事し、多数の院生を指導。J Appl Physiol, Med Sci Sports Exerc などに複数の論文を掲載させるなど、優秀な人材を輩出している。現在は、スポーツ庁からの委託研究や大手製薬研究所とのサプリメント開発研究などを行っているが、回復力、疲労耐性や運動能力向上に関する、機能的食品との併用を含めた統合的なスポーツ科学研究を展開していく予定である。

小坂井 留美 KOZAKAI Rumi
教授※
担当科目 スポーツ老年学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 名古屋大学大学院医学系研究科（健康社会医学専攻）。博士（医学）。国立長寿医療研究センター予防開発部予防疫学室長（2006-2009）。フィンランド・ユバスキュラ大学外来研究員（2009-2012）。健康運動指導士。日本体力医学会、日本老年社会学会、日本公衆衛生学会、ヨーロッパスポーツ科学会等所属。
主な研究テーマ及び概要 ・中高年者における運動機能・身体活動量の加齢変化とその維持向上に関する研究 ・高齢期の健康に関わる生涯における運動経験や家庭環境に関する研究 ・高齢者における心身機能の低下予防に向けた実践的研究 ・氷雪寒冷地域における老年学的課題についての研究 生涯を通じて人々が活動的であることを目指し、中高年者の身体機能や生活習慣を経年的に観察し関連要因を探索すること、運動の実践の効果を検証することを行っている。

井出 幸二郎 IDE Kojiro
教授※
担当科目 スポーツ生理学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 1992 年福岡大学体育学部卒業、1994 年福岡大学大学院体育学研究科修了、1995 年～2000 年コペンハーゲン大学筋肉研究所、2001 年～2004 年カルガリー大学医学部呼吸生理学研究科、研究員。日本体力医学会、日本体育学会、日本トレーニング科学会、日本生理心理学会、アメリカスポーツ医学会、アメリカ生理学会、日本トレーニング指導者協会、日本 SAQ 協会、会員。
主な研究テーマ及び概要 近年は吸入ガス濃度をコントロールする研究手法により、低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と体力との関連性について研究している。将来的には低酸素や高炭酸ガスに対する脳血管の反応性と加齢による認知機能の低下、体力との関連性についての研究に発展させる。本学には、簡易低酸素・高酸素トレーニング室及び高温トレーニング室があり、これらを用いた研究も可能である。近年では、間欠的な運動における回復期に吸入する酸素濃度の違いがパフォーマンスにどのような影響を与えるか、高温環境下における間欠的な運動において、体温をコントロールすることがパフォーマンスにどのような影響を与えるかについての研究にも取り組んでいる。現在用いている主な研究手法は、多チャンネル近赤外線分光装置、吸入ガス調整器、心拍変動（HRV）、認知心理学実験装置、単チャンネル近赤外線分光装置を用いた血流依存性血管拡張反応、血圧脈波検査装置、体温データロガー他。

小田 史郎 ODA Shiro
教授※
担当科目 休養・睡眠学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本睡眠学会、日本体力医学会、日本生涯スポーツ学会、日本認知症予防学会、北海道体育学会所属。
主な研究テーマ及び概要 ①良好な睡眠を得るための運動方法および生活処方に関する研究 ②運動が睡眠を悪化させる条件に関する研究 ③北方圏在住者の身体活動量と睡眠の季節差に関する研究 ④北方圏在住者の季節性気分障害並びに生活習慣病に対する身体運動の有効性について 以上のテーマについて、生理学的実験と疫学調査から実証的に研究を進めている。生理学的実験では睡眠ポリグラフ（脳波、眼球運動、筋電図）や身体活動量（アクティグラフ、ライフコーダ）によって睡眠を客観的に評価し、さらに心拍数、心臓自律神経機能、体温、ホルモンといった関連データから、睡眠変化が生じたメカニズムについて追究している。疫学調査では質問紙法を用い、生活習慣病や季節性気分障害との関連性もふまえながら身体活動と睡眠の関係について研究している。

竹田 唯史 TAKEDA Tadashi
教授※
担当科目 冬季スポーツ指導特殊研究、特別研究指導
PROFILE 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（教育学）。Asia Association of Coaching Science（理事）、日本スキー学会（理事）、日本体育学会、日本コーチング学会、日本体育科教育学会。
主な研究テーマ及び概要 積雪寒冷圏域における冬季スポーツの普及・発展を目指し、国内外の最新の研究動向を把握し、競技者、一般愛好家など、対象者に応じた体力、技術分析・指導方法について研究する。特に、スキー、スノーボードなどの雪上スポーツを中心として研究を進めるとともに、他の生涯スポーツ種目の指導方法についても探求する。 ・冬季スポーツ種目の普及と競技力向上に関する研究 ・冬季スポーツ選手の体力特性に関する研究 ・冬季スポーツ選手の技術分析に関する研究 ・冬季スポーツ選手の指導方法に関する研究 ・生涯スポーツ種目の指導方法・指導プログラムに関する研究 ・生涯スポーツ種目のコーチングに関する研究

山本 敬三 YAMAMOTO Keizo
教授※
担当科目 スポーツバイオメカニクス特殊研究、特別研究指導
PROFILE 1974年に山口県に生まれる。北海道大学へ入学し、2004年12月に北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻にて博士後期課程を修了。博士（工学）。日本体育学会、日本バイオメカニクス学会等の学会、冬季スポーツ科学研究会や臨床歩行分析研究会等に所属。2007年12月にオーストリアで行われた第4回国際スキー会議（ICSS2007）にて、「スキージャンプ・テイクオフ動作の空気力学的解析」を発表し、若手研究者賞（2位）を受賞。2017年に北海道科学技術奨励賞、2018年に日本バイオメカニクス学会賞を受賞。現在もスキージャンプを対象とした力学測定、流体解析の研究に積極的に取り組んでいる。また、バイオメカニクスに関する学術セミナーを行い、スポーツ指導者や若手研究者のサポート活動を積極的に行っている。
主な研究テーマ及び概要 冬季スポーツ種目を主な研究テーマとし、バイオメカニクスおよび流体力学的な手法でアプローチしている。派生的に、身体運動の左右対称性や運動学習に関する研究にも取り組んでいる。大学院博士課程の研究テーマでは、複数の学問分野にまたがる学際的な研究内容を推進したい。

畠中 智志 UNENAKA Satoshi
講師
担当科目 スポーツ心理学特殊研究
PROFILE 大阪府出身。鹿屋体育大学体育学部卒業後、鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。特別支援学校常勤教諭を経て、鹿屋体育大学大学院体育学研究科博士後期課程（体育学；スポーツ心理学専攻）修了。博士（体育学）。杏林大学医学部統合生理学教室博士研究員（2015-2017）。日本スポーツ心理学会、日本スポーツメンタルトレーニング指導士会、日本体育学会、日本バスケットボール協会所属。
主な研究テーマ及び概要 体育・スポーツ心理学を専門とし、研究を行っている。予測、身体性意識、運動学習、熟達化、知覚・運動制御などについて実験を行い、パフォーマンス向上に寄与する要因の解明、知覚トレーニングの考案を進めている。また、スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有し、スポーツ競技に関わる個人・チームへの心理サポートなどのフィードレベルへの介入も行っている。

高田 真吾 TAKADA Shingo
講師※
担当科目 健康運動科学特殊研究、特別研究指導
PROFILE 1985年に福島県に生まれる。北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（成績優秀のため短縮修了）。博士（医学）。所属学会：日本体力医学会評議員、米国生理学会、米国スポーツ医学会、米国心臓病会議、日本循環器病学会、日本体力医学会、日本心臓リハビリテーション学会、国際心臓研究会日本部会、日本臨床運動療法学会。
主な研究テーマ及び概要 北海道大学大学院医学研究科にて「慢性疾患における運動能力・骨格筋異常とその治療法の開発」に関する研究を基礎・臨床の両面から発展させ、一流国際医学雑誌であるCirculation（2018）、Cardiovasc Research（2016, 2020）、Cell Communication & Signaling（2019）、Skeletal Muscle（2020）、Front Cardiovasc Med（2020）等に多数論文を掲載した。その業績を評価され、日本循環器学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本体力医学会から多数の受賞および助成金を授与された。また、運動のトレーニング効果における「運動・筋収縮由来サイトカイン（マイオカイン）の役割や機序解明」を通じて、“human biology”の研究を展開する。

花井 篤子 HANAI Atsuko
准教授
担当科目 アクアフィットネス特殊研究
PROFILE 立教大学社会学部卒業後、筑波大学大学院修士課程体育科学研究科（コーチ学専攻）を経て、筑波大学大学院博士課程体育科学研究科（体育科学専攻）修了。博士（体育科学）。日本水泳水中運動学会、日本体育学会、日本体力医学会、日本生理人類学会、Biomechanics and Medicine in Swimming等所属。
主な研究テーマ及び概要 アクアフィットネスとは、水中運動、水治療法、水泳の3つに分類され、水を媒体として健康を維持増進させる概念である。研究概要はアクアフィットネスを軸に、国際的研究動向を分析把握した上で、応用健康科学的見地から、水の特性に基づいた冰雪寒冷圏域における健康運動の果たす役割について探求し、運動処方としてのあり方や新たな可能性について模索・考案する。最新のアクアフィットネス指導技術やその効果の測定・評価技術を習得することで、生理学的、心理的側面から高度な研究遂行に必要な課題設定能力と科学的分析能力を養成する。

黒田 裕太 KURODA Yuta
講師
担当科目 スポーツ栄養学特殊研究
PLOFILE 2006年に鹿屋体育大学後、スポーツ栄養学の道へ。2010年に天使大学を卒業。2019年に北海道大学大学院教育学院博士課程を修了（教育学）。資格は、中・高等学校教諭一種免許状（保健体育）、管理栄養士など。2011年より北海道テニス協会強化本部にてジュニア選手の強化事業に携わる。また、2018年は北海道日本ハムファイターズ主催の食育講座、2019年からは、日本テニス協会 toto 助成事業にて日本テニス協会医科学委員との共同でスポーツ栄養学の講師を務める。所属学会は、日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本テニス学会、日本スポーツパフォーマンス学会、日本栄養改善学会。
主な研究テーマおよび概要 アスリートおよび運動愛好者の競技パフォーマンスに貢献するためにスポーツ栄養学的観点から研究を実施している。アスリートおよび運動愛好者は、日常的に身体活動量が多い方が多い。身体活動量が多いと言うことは、そうでない人と比較して栄養素を多く摂取すること、その摂取量が適切かどうかを判断する必要がある。また、運動時には、体温上昇に伴い発汗が生じる。その発汗により身体から水分や栄養素が失われ、人間のパフォーマンス（脳活動や筋力など）に様々な負の影響を与える。その結果、運動時に競技パフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある。これらの問題点の改善に貢献できるような知見をスポーツ現場へ還元することを目的としている。

吉田 昌弘 YOSHIDA Masahiro
講師
担当科目 アスレティックリハビリテーション特殊研究
PROFILE 札幌医科大学大学院保健医療学研究科理学療法・作業療法専攻スポーツ理学療法分野にて博士課程後期を修了。博士（理学療法）。日本アスレティックトレーニング学会、日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本理学療法士協会などに所属。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士の資格を有し、多くのスポーツ現場でアスリートのサポート活動に携わってきた。International Coaching Science Conference(2015)にて「足関節捻挫症例におけるホップ動作中の病態運動」を発表し、Best Poster Presentation Awardを受賞。現在はアスリートの安全な競技復帰の指標となる新たなフィールドテストの考案に関する研究を行っている。
主な研究テーマ及び概要 スポーツ外傷・障害からの安全な競技復帰を研究テーマとし、競技者のコンディショニングを定量的に評価することを目的とした研究を進めている。特に、フィールドレベルでの体力特性評価の実践や、疲労中に生じる筋活動や心拍数の変化の詳細について分析を行っている。大学院生の研究では、これらの研究成果をさらにアップデートし、様々な疾患を視野に入れた新たなコンディショニング評価方法の考案に関する研究を進めたい。